平成28年度　第1回　黒部市観光振興計画策定委員会

日　時　　平成28年7月26日（火）　14：00～16:00
場　所　　黒部市役所2階　201会議室
出席者
（委　員）
渡辺 康洋　　桜美林大学　教授
川端 康夫　　（一社）黒部･宇奈月温泉観光局　代表理事　代理　事務局長　坂井英次
濱田 政利　　宇奈月温泉旅館協同組合　理事長
藤田 義弘　　黒部峡谷鉄道株式会社　営業部長
島　武夫　　黒部商工会議所　専務理事
米田 広志　　ＹＫＫ株式会社　黒部事業所長室　室長
米屋 清美　　黒部観光ガイド　会長　（途中退席）
中島 昭彦　　宇奈月100年会　代表理事
勝田 見一　　公募
原　恵美　　公募
中尾 晃司　　公募
中谷 明博　　富山県観光･地域振興局地域振興課　課長
砂原 賢司　　富山県観光･地域振興局観光課　課長　代理　主幹　長澤浩一
飯澤 宗晴　　黒部市産業経済部　部長
（欠　席）
飯塚 龍志　　黒部まちづくり協議会　副会長

（事務局）　　黒部市産業経済部商工観光課

議　事
1. 開会
2. 委嘱書の交付
3. 市長挨拶
4. 委員の紹介
5. 委員会設置要綱について
6. 協議事項
(1) 委員長の選出について
(2) 職務代理者の指名について
(3) 黒部市観光振興計画策定の諮問について
(4) 前計画の検証について
(5) 計画の全体イメージについて
(6) 今後の協議方法及び策定スケジュールについて
(7) 現状と課題について
(8) 基本方針について
(9) 施策体系について
7. その他
8. 閉会

資　料　　1. 黒部市観光振興計画策定委員会　委員名簿
2. 黒部市観光振興計画策定委員会設置要綱
3. 黒部市観光振興計画の策定について（諮問）
4. 黒部市観光振興計画（H19～H26）の検証
5. 黒部市観光振興計画　全体イメージ
6. 今後の協議方法及び策定スケジュールについて
7-1. 委員からの観光に対する意見集約（事前アンケート結果）
7-2. 黒部市観光振興計画（素案）

1. 開会

2. 委嘱書の交付

3. 市長挨拶
堀内市長

現在の計画は黒部市が合併した翌年の平成19年3月に策定され、観光協会の統一や体験プログラムの開発・販売等北陸新幹線の開業に向けたものとなっており、様々な課題も見えてきている。昨年大きな話題になったものとしては、パノラマ展望ツアーがある。北陸新幹線の開業を契機に関西電力の協力を得て、一部竪坑の開放や遊歩道の整備を行った。計画策定から約10年が経過し、その間に少子高齢化の急激な進行、インバウンドの急激な増加、団体旅行から個人旅行へのシフト、着地型（体験型）観光を目的とする旅行者の増加など、様々な社会状況の変化があった。今回の計画は、その変化を受けながら、黒部市の山・川・海の資源を活かした新たな商品開発に取り組むなど、我々も大きな環境変化に対応していかなければならないと考えている。そのような意味で、今回の観光振興計画にはかなり実効性が問われると思う。
本委員会は、学識経験者の方をはじめ、観光団体、公募委員、行政など、様々な方で構成されているので、これまでの経験や見識をしっかり発揮していただき、中身のある計画になることを期待している。
また、今回は計画期間を短期・中期・長期と設定し、4年後のオリンピックや6年後の北陸新幹線の敦賀延伸など、大きな節目までに何をしていかなければならないかを見据えた計画として策定したい。
黒部市にとっても観光は非常に重要な産業なので、実効性のある計画にしていただけるよう、宜しくお願いしたい。

4. 委員の紹介　　各委員自己紹介

5. 委員会設置要綱について

6. 協議事項

(1) 委員長の選出について

要綱第4条 第2項により、桜美林大学の渡辺康洋教授に決定。

委員長　　観光には国内、海外、訪日の3つの旅行タイプがあるが、伸びているのは訪日だけであり、国内と海外は減少しているという統計もある。言わばゼロサムゲームの中で仕事をしなければならない。観光振興に取り組んでいる自治体は全国にたくさんあるが、その中で負けないように、皆様と力を合わせながら、黒部の素晴らしい魅力を理解してもらい、観光客に来ていただけることが可能になる計画を一緒に策定していきたいと考えている。

(2) 職務代理者の指名について

要綱第4条 第4項により、宇奈月温泉旅館協同組合の濱田政利理事長に決定。

職務代理者　委員長とは過去にも一緒に仕事をしたことがあり、また仕事を一緒にできることになりうれしく思う。今年3月に開催された観光ビジョン構想会議において、2020年度インバウンドに対して非常に高い目標値が設定された。その目標も含め、いろいろな自治体が地方創生に向かって動いている。富山県においても、富山県観光連盟がとやま観光推進機構となり日本版DMOの登録をされた。黒部市は黒部市のオリジナルの計画にしたいと考えている。

(3) 黒部市観光振興計画策定の諮問について

堀内市長　資料3に基づき、渡辺委員長に観光振興計画の策定を諮問。

事務局　資料3に基づき、基本方針を説明。

(4) 前計画の検証について

事務局　資料4に基づき、前計画の検証について説明。

委員長　委員の中には、平成19年に策定された計画に携わる仕事をされた方もおられると思う。今の事務局の説明や資料4についてのご意見や補足事項があれば発言していただきたい。

委員　現行の計画には、事業の目標年次は示されていたが、「誰がやるのか」「誰に要請するのか」というところまで決まっていなかった。以前、観光ガイドは、市役所、商工会議所、まちづくり協議会の3つに分かれていたため、相互に情報の交換することができなかったが、現在、ガイドによる連絡協議会を立ち上げたところである。

委員　観光商品づくりに関して、新川圏で123個の着地型観光商品を作成したが、現在まで残っているものは少ない。その要因は、商品を作っても発信する方法が限られていたからである。エージェントを絡めることができなかったので大幅な誘客には繋がらなかった。パノラマ展望ツアーや生地の街歩き等は、私たちが宣伝しなくてもエージェントが売ってくれる。規模の小さい着地型商品は、近くに核となる商品がなければいけない。例えば宇奈月温泉には黒部峡谷という核があり、そこから人を動かすことができている。黒部市全体で考える場合は、黒部市内に1つ核となる商品をつくり、そこから体験スポットをつなげていくことが必要だと思う。単独では移動も大変である。123の商品の中には、年間10人以上の集客に満たないものもある。受入場所の安全性や駐車場の整備等が不十分で本当に観光客を連れて行ってもいいのか不安なものもあった。観光素材を考える場合、受入側の体制整備も考える必要がある。

委員長　受入側の体制整備については、別府のハットウ・オンパクの事例がある。

委員　黒部峡谷の認知度は上がってきていると思う。商品づくりで一番重要なのは販売、マーケティングだと思う。旅館の観光商品は大手旅行会社の商品やパンフレットにいかに掲載してもらうかが重要で、パノラマ展望ツアーは、ほとんどの大手旅行会社のパンフレットに掲載されている。現在、黒部峡谷はキラーコンテンツとなっているが、黒部峡谷自体、黒薙、鐘釣、欅平について、それぞれ深掘りしていかなければならないと思う。人を通じた発信を積み重ね、つくった商品をいかに売るか真剣に考える必要がある。

委員長　　商品づくりという意味では、これまでの体験型商品の検証をする必要があるのではないか。

委員　　難しいかもしれないが、普通、検証というものは理由まで含めたものだと思う。「取り組みが不十分だった」という1行のみでは検証とは言えないと思う。

事務局　　ご指摘の通り、本来、検証というのはしっかりと行うべきだと思う。現行の計画は作りっぱなしだったという部分があると思う。計画の目標値として、宇奈月温泉の宿泊者を80万人にするとしていた。現状、北陸新幹線開業後で33万人程度となっており、今後80万人に向けて、どのようなプロセスで誰がどれだけやるのか、どのように進捗管理をするか等まで計画されていなかったところが反省点である。今回の計画は、期間を区切る等、実効性のある計画にしたいと思う。

委員長　　我々は今回の計画を前計画よりも良いものにしなければならず、そのためにはしっかりと反省し、学ばなければならない。今後の議論の過程の中では、計画の検証を基に進めていかなければならないと思うので、事務局は、できる範囲で何かベースになるものを提示していただければと思う。

(5) 計画の全体イメージについて
(6) 今後の協議方法及び策定スケジュールについて

事務局　　資料5、6に基づき、黒部市観光振興計画　全体イメージ、今後の協議方法及び策定スケジュールについて一括して説明。

委員　　説明された章立ては、短期、中期、長期の3つそれぞれに作成するのか、それとも3つ合わせたものとして作成するのか。また、資料4に推進体制の構築の部分で既存の組織があるとの記載があるが、それに加えて新しい組織を作る必要があるのか。スクラップ＆ビルドというわけにはいかないのか。

事務局　　短期・中期・長期という区分については、3章の個別施策を作成する上で、それぞれの施策の中で短期・中期・長期が分かるようにしたいと考えている。推進体制の構築にある組織に関して、継続するのか、スクラップ＆ビルドをするのか、新しいものを作るのかは、今後の協議の中で考えていきたいと考えている。

委員　　3章の個別施策と4章の重点プロジェクトはどういう関係にあるのか。また、前計画が作りっぱなしだったというのであれば、今回策定する計画の推進体制の中に、推進状況の把握やチェックに対する内容を含めていけばよいのではないか。

事務局　　個別施策と重点プロジェクトの関係については、まず個別施策を作成し、その中から重点プロジェクトを決定し、それについて重点的に協議していきたいと考えている。検証の仕方については、大きな課題だと思っているが、3回の委員会でどこまで検証できるか不安な部分があるので、5章の中で一緒に考えていただければと思う。

委員　　委員会の開催が3回と決められているが、回数を増やすことはできないものなのか。

事務局　議論の中で、どこかのタイミングで委員会を開催すべきということになれば準備したいと考えている。また、先ほどの重点プロジェクトの考え方について補足だが、この後に新しい黒部市観光の策定に向けた課題について議論したいと考えている。その中でも皆さんとの議論の中で見えてくると思う。大きな課題の解決に向けた事業がプロジェクトになることもあると思う。単に個別施策の中から選別するというだけではない。

委員長　事務局は各委員の方々と密接に連絡を取っていただき、なるべく多くの意見を計画に反映させていただければと思う。また、議論を効率的に進める上でも、今後は会議資料やアンケート結果を事前に送付するなどの工夫をお願いしたい。

(7) 現状と課題について
(8) 基本方針について
(9) 施策体系について

事務局　資料 7-1、7-2 に基づき、現状と課題、基本方針と施策体系について一括して説明。

委員長　基本目標の捉え方としては、基本目標を決めて、それに基づいて個別の施策を考えていくということなのか。

事務局　市民と一体となって観光に取り組むにあたって、その方向性を決めるキャッチフレーズ的なものと考えている。

委員　基本目標は黒部の地域性が感じられるものがよいと思う。全体を網羅したものではなく、何か 1 つ黒部らしいキャッチフレーズをつける方が伝わりやすいのではないか。

委員　今日初めてこの資料を渡されて、説明をされているが、おそらく委員の皆さんはついていけてないのではないか。話されていることが全てポイントなのだろうと思うが、資料にポイントの記載がないので、資料が活きていない。また、基本目標について、キャッチコピーなのか、それとも今までやってきた結果に対する新しい目標なのか。

事務局　事前に資料が配布できていれば、議論も進めやすかったように思う。また、今後はポイントが分かりやすい資料作りに努めたいと思う。基本目標については、最終的に、課題や施策の体系、方針、個別施策等の一覧表のようなものを作成し、この地域がどこに向かっているのか、何を目指しているのか分かるようにまとめていきたいと思っており、その一連の流れの中で拠り所となるものあれば良いのではないかと思っている。

委員　企業においては、課題の整理や対応策を議論していき、最後に 1 番適切なキャッチコピーや基本方針を決める場合もある。やぶさかに今決めてしまって、そこから方針や個別施策に落としていく必然性はないと思う。

委員　基本目標は、対外的に公表するものであれば、この時間内に決めることは難しいと思う。

委員　数値目標（案）にあるホームページのアクセス数もあるが、例えば Facebook のチェックイン数や「いいね」の数など、もっと細かい数値目標もあると思う。先日のインターネットの記事で、トリップアドバイザーのインバウンドのアクセス数の伸び率が、富山県が全国で 3 位となっていた。2 位が茨城県、1 位は石川県だった。富山は外国人から非常に注目されている。

委員　今後、外国人も団体旅行から個人旅行にシフトしてくると思われ、個人客に対応できるガイドが必要になると思う。黒部市は多くの企業が海外に進出しているので、その影響で帰国子女が多いが、普段の生活では英語が話せる能力を活かす場がないと言われている。一般の市民の方に協力を求める意味でも外国人観光客への対応に帰国子女の活用を図る方法もあるのではないか。東京オリンピック等を見据え、今から準備していく必要がある。

委員長　基本目標については、今この場で決めてしまうのではなく、もう少し議論をして、次回以降に決めるという形にしたいと思う。また、今回の計画の中では、これからはインバウンドに注目しなければならないことを皆感じているのではないか。県全体としても非常に伸びており、黒部市においても台湾を中心に多くの海外旅行者が訪れている。インバウンドを意識する上で大事なことの１つは「発信」である。何をどう発信するかが重要。もう１つは「受入体制」である。黒部に来ていただいた外国人旅行者に、どのように楽しんでいただくか、外国人旅行者が何を求めているのか、どのようにしてお金を消費してもらうか等という仕組みや物を作らなければならない。マーケティング的に言うとターゲットの話をしていくことになる。いろいろなマーケットがあるが、どこを狙っていくかは真剣に議論しなければいけない。インバウンドの他、例えば、首都圏なのか県内や隣県なのか。ターゲットについて少し議論したい。

委員　市長が 2022 年度の敦賀延伸という明確な目標を示された。そこがこの計画の１つの目標なのかもしれない。我々が開業に向けて準備したことを検証し、2022 年度の敦賀延伸という次のチャンスに向けて、反省をいかした計画を立てなければならない。また、先ほどから事務局の説明に対して、我々が意見を言うという形で進行してきたが、全ての提案を事務局に任せてしまうのではなく、この場で積極的に意見を出し合って議論を深めていきながら、納得できる計画を策定していきたい。

委員　例えば「訪日客に日本一優しい町」という目標にすると、いろいろな発想が出てくる。外国のクレジットカード対応や外国人専用のパスを作るなどである。また、着地型観光に関して、大きい施設を作るよりも、小さい施設を活用して個人客に動いてもらった方が、町全体を改造する必要がないので良いと思う。新幹線が開業し、黒部宇奈月温泉駅にはもっと貸し切りバスが来るかと思っていたら、全然来ていないことから、今後は、個人の消費をいかに増やすかだと思うので、黒部市は個人客に優しいまちづくりを目指すべきだと思う。エージェントとのつながりも活かしながら個人にも対応できるので、ＹＫＫさんのフリー券はうれしかった。ただし、運行会社によって料金が異なるので、できれば全て同じ金額にしていただけるとよい。

委員　私の会社ではターゲットを明確に決めている。１つは個人客、もう１つは関東圏から来るお客様である。黒部から出張に行く場合においても、関西へ行くより関東の方が行きやすい。東京から名古屋も近い。今回の計画でターゲットを議論する場合、ターゲットになるマーケットを 2 回に分けなければならないかもしれない。短期、中期的には関東圏、長期的には関西圏、東京オリンピックを境にターゲットを切り替えることも検討する必要があるのではないか。

委員　北陸新幹線が開業して関東からの観光客が増えた。2022 年度の敦賀延伸の際は、関西圏の観光客が増えるということが考えられる。今から敦賀延伸に向けた戦略を立てることは必要だと思う。

委員　　インバウンドについて、現状の外国人旅行者は、台湾が最も多く、次に韓国となっているが、黒部市として次にターゲットとしていく親日国のリサーチが必要ではないか。また、外国人旅行者の中でも10代向けの体験を考えるなど、大人になって子供をつれて再び来てくれるような目的、目標、理念をかかげ、委員によって様々な意見を出し合ってまとめていく方法がよいと思う。そういう意味では事前アンケートに書かれた委員の思いを再度整理し、インバウンドの他に何に注目するべきか検討していきたい。

委員　　黒部峡谷鉄道は独自にいろいろな調査やＰＲを積み重ねてきた。一昨年くらいから、富山県等と、官民一体となっていろいろな所でＰＲ活動を行った。新幹線が開業したからというだけでなく、それに関連した様々なＰＲを行ったから、それなりの開業効果を得られたのだと思う。ただ、今年は、4、5月は前年対比がプラスだが、6、7月は伸び悩んでいることから、2年目のジンクスの影響を感じている。私の実体験から、黒部峡谷の知名度は、エンドユーザーに対してまだまだ低いと感じている。様々な媒体を使い、黒部峡谷鉄道単独より黒部市全体、そして近隣市町も含めて、周囲にある資源は何かＰＲに努めているが、昨年のように伸びない。インバウンドに関しては、いろいろな旅行会社に出向宣伝に行っても厳しい。円高の影響もあるが、東京、神奈川、名古屋、大阪にも出向宣伝に出向いている状況だが、立山黒部アルペンルートのサブに黒部峡谷がある傾向が否めない。開業2年目の落ち込みをいかにおさえるかが課題である。そのためにも官民一体となって、いろいろなことに取り組んでいかなければならないと感じている。

委員長　　ビギナーの獲得、リピーター対策、観光客の滞在時間を延ばすということ、観光客の消費金額をどのように増やすかを計画に盛り込む必要がある。また敦賀延伸に向けて関西方面からの誘客も視野に入れなければならない。

委員　　観光にはいろいろな「楽しみ」があるが、その1つに「知る楽しみ」があると思う。黒部市には、あまり知られていない世界一や日本一がたくさんある。特に水に関するいろいろな苦労を乗り越えて、現在の豊かさがあるといった歴史的な部分等も観光資源になると思う。

委員　　資料中の表やグラフの年を新幹線開業後の平成27年の数字で揃えて掲載してほしい。

7. その他

事務局　　資料7-1、7-2に基づき、現状と課題、基本方針について説明。

8. 閉会

以上